類題發句百川集

秋

へ5
4128
3

門へ利5
號4128
全4－3

類題發句百川集初編秋之部

月錄

初月 五丁　二日月　三日月　待宵 六丁　名月
今日月 九丁　新月 十丁　月今宵　名月兩 十二丁　兩月
十六夜　既望兩　在明月 十三丁　立待月　居待月
月　秋月 十八丁　月見 十九丁　月秋 廿丁　星月夜
七月 廿丁　立秋　今朝秋 廿二丁　來秋 廿四丁　初秋
七夕 廿五丁　星合 廿六丁　鵲橋　天川　梶葉 廿八丁
盆會　迎火　魂祭　墓祭 廿九丁　盆月
生身魂　刺鯖　送火　大文字 三十丁　燈篭
攝待　踊　相撲 卅一丁　花火　殘暑

露涼　初嵐 廿二丁　拂散　桐葉散　木槿 廿四丁
朝顔 廿五丁　桔梗 廿八丁　女郎花　荻 廿九丁　荻花 四十丁
芙蓉 四十一丁　秋海棠　蘭　藤袴 四十三丁　雀麥
芭蕉　紫苑　蕃椒　西瓜 四十三丁　南瓜
糸瓜　瓢　秋蟬　蜩 四十四丁　秋蠅
秋蚊　秋蜂　秋蝶　蜻蛉　蟷螂 四十五丁
蟲　蛬 四十六丁　松虫 四十七丁　鈴虫　蓑虫
竈馬　蜱 四十八丁　螽蟲　蚯蚓鳴　稲妻
露 四十九丁　霧 五十一丁　秋風 五十二丁　扇置 五十四丁　八月 五十五丁
八朔　田面日　後彼岸　二百十日　月見紀行
放生會 五十八丁　初汐　野分　稲花 五十九丁　稲

新米　木犀花　花野　草花　蓼花 六十丁
鷄頭　芋　秋茄子　鬼灯　蔦
蕎麥花　稲刈 六十二丁　薄　尾花 六十二丁　荻芒 六十三丁
芦穂　秋野　秋山　秋海　秋水
秋空　秋雲　秋日　秋夕 六十四丁　秋夜
長夜　砧　鳴子 六十六丁　案山子 六十七丁　添水
落水　崩簗　蛇穴入 六十八丁　秋雨　鳴
鶉 六十九丁　初鳳　雁 七十丁　渡鳥 七十一丁　啄木鳥
鵙 七十二丁　澁鮎　鹿　九月 七十三丁
北野芋堂祭　重陽　十日菊 七十四丁　後雛 七十八丁
後月　十三之夜 七十九丁　新酒　秋寒　冷 八十丁

朝寒　夜寒　秋霜　露霜八十二丁　栗
梨子　柊　椎　木實　菜萸八十三
柚味噌　松露　初茸　菌　紅葉
州木紅葉八十四丁　末枯　秋暮　行秋八十五丁　冬近
九月盡　秋雜

名月の
伺覚乃
屑家哉
一茶

雪やこたつ
屋根の
秋乃月
俄雪

明るきもの
中やうの秋月
遠ちをの
序

類題發句百川集初編秋之部

泮水園芹舍輯
獨笠翁飄齋校

初月

[illegible] 篤老
初月の本[illegible]師の[illegible] 西月
初月や[illegible]ぬ 鳳朗
類題日月
[illegible] 士朗
山[illegible] 〃
初月[illegible]雲の[illegible] 〃

[illegible]五日月　士朗

[illegible]　沙鷗

[illegible]　而后

[illegible]　思又

[illegible]　樹石

[illegible]　岱年

[illegible]　芹舎

[illegible]　雄淵

[illegible]　士朗

〃

二日月

二日月

極楽の[illegible]　蒼虬

〃

〃

〃

梅室

〃　沙鷗

〃

〃　西月

庭梅

〃

〃

〃

而后

梅裡

華梁

待宵

年ゝや十五のあらし松の月　梅室
ちるやあらしの音ばかりなる　升六
待宵や置あるゝ新を法のなる　寄淵
待らいや宵をぬれて行淋山　鳳朗
待宵や行やゝ宵の鳴りつゝき　葛之
待宵や行ゝ月はれ　梅室

名月

名月や眠るあるゝ山
めいげつやきたるゝ名月薄
名月や鶴ゝ白徳利
名月や寄ゝたる松の新
名月や寄ゝ人ゝ

名月や桜の芝桜も久しぶり　蒼虹
名月や拍子ぬけ　〃
めい月や一枝淋山　〃
名月や切燈ゝ　〃
名月やあつゝ　〃
年ゝの名月歩り　〃
名月や行ゝ人の袖　〃
名月の傍ゝ車　〃
名月のとゝ人ゝ月の渡　世南
名月や吹ゝつのらぬ垂の音　南溪
ちゝれゝ名月ぬ松ぬ　曰人

名月やこの日も一路ゆくさとも　成美
めい月や先さまるまと出会合　一茶
名月や山をはなれて仕舞ひ　鳳朗
名月を汐山ふかくうつりぬ　〃
名月のさけふかりより芋掘　〃
冬河の山道ゆく
ひとりとなく名月の出ぬうち　〃
名月や茅ぶき門の角田川　〃
住むとよりあるの名月のふくらり　〃
良秋法光
名月のたうふ寄のたうふ　士朗

名月とのつゝ目出ぬうち　〃
名月や垣根の内は歩行ぬ　沙鷗
名月や新堀の通さ月乃岸　〃
めいつゝ川うちうち松のみ　〃
名月や平山ぬ石ぬ海水　〃
光の月や一見まさ物あり　〃
作り男のつゝをよけい
名月や領風ぬ海く家ちゝ　〃
名月のあく島むしろや家の端　〃
名月や寒ちとて浅田畑　〃
名月のゆくつゝ作ぬ　〃

名月のたつ新たなる新堀れ　素璧
めい月や野中の君はたちら五　椿堂

大光山にて

名ちらや寺の新たに山松たちり　旭嶂
名月や一木乃松の影ゆき　桂季
先いけつや留く乗る軒の山　醉雨
名月や苔も制らぬ武士の涙　一清
名月や筆のせりもせ乃裏　梅裡
名月や葉ちらさ　桔梗　伯遠
名月や新たなる丸さ筆の本畑　蕣堂
名まつや新たなる新たなる　柳後

今日月

名月やさ〻波つくるたちり　明良
何よりも先ん名ちる丸波の雲　九萃
名月や用ハなき灯も灯つ　芹舎
名月の月市ちるたちり花　闌更
筆代や山の上ちり今日月　士朗
ちる月のうくとる形ぬる月　い
月新のうちに花ちり今日月　洲鷗
ちれちり波月月ちる月月　い
照月ん波ちりちる月月　レ
月上陽月　レ
月ちつをやちるせんけ月月　レ

梅室

蒼虬

湖上

木海

南溪

鳳朗

葛之

多代女

定比

新月　思文

月今宵　凡旁

二松

月居

世南

蒼虬

木海

江戸新橋ゝ

梅室

仙歩

名月雨　鳳朝

世南

芝山

芹舎

士朝

雨月

須磨行

海人の袖ゝ

沙鷗

蒼虬
多代女

旭嶂亭

而后
其翠
芹舎
鳳朗
〃
梅室
蒼虬
〃

十六夜

世面
〃
篤方
〃
道彦
乙二
萬和
士朗
〃

井戸田ゆう

十三夜ゆさて海辺の色
既望雨　士朗
既望たゝ糸月は雲の色　沙鷗
いきよりいやゝ多くの人
〃
黄山
星ゝの流をたゞ十三夜
華梁
ひさしやゝ多くの術
伯遠
いきらひの乃ち知る海の色
大津言記者
十三夜月波の上ゆ出る船の上
枝月尼
仲秋の立川にて
梅室
いきよりあり出るより星ゝ月の白し

在明月　ありあけや月の出る人
立待月　たちまちはいとりうる人の走
居待月　居田ゆう
月　青ゝふ北帰走波ゝく拾ひ舟
葵亭
篤老
大原やゆうり拾ひ舟
枝月尼
知ふも法ゆとしあるやうけり
道彦
〃
さゝ舟の数ゆ歩き者ゝ
乙二
能ゆゝ船ゝ船ゝ
鳳朝
月の船ゝ船ゝ
〃
月を舟に初ゆ法ゆ多ゆ
〃
新月を天ゆ見ゆ

梅の咲く枝の上　鳳朗
うぐひすに入る如く吸むなるか　〃
川傍り灯を移す梅の花　〃
月しろやよ人妻の恋ひしく　蒼虬
さきちらす徳の宿やなの書　〃
松葉く男もなのめしられ　〃
井くみ首骨たるしなれくと　〃
池の面に落ちる花くなの屋　〃
却ぬるひくり　つまり乃書　〃
人を通く送る手出り山の月　〃
只業うめ出る入けり月乃門　〃

良夜清光

梅新を移せて俗を我ふきく　世南
書曲る筋やく梅新の　〃
お只出るやかやふる山の月　〃
月やふるるやかや変きく人の為　〃
月清や破屋を新ら持もせて　〃
竹生島
ちるなくめて波ふり寄なし　沙鷗
幸嬢の
松陰や男ひ上りと梅のる　〃
光切くなるをを出る梅新の　〃

姪鹿や艶おちこぼれて不破の月　沙鷗
今宵まで見ぬ雲よりと月の姫路　〃
州の月揉平しる銀をせき留　〃
能い月ありほどせ不添し人無り　〃
思はれてやるの深きつ月知られ　〃

真如の月といふ題を探て

法やれば月も雲井にやすけし　〃
月あり喜ては山路たどらぬ影も添し　〃

東岳亭にて

一村り一面こうしつまれ雲　〃
影月ちは本の日の丸月を似合しき　〃

海外

志賀の月は涼む浜縁の帆かな　西月
深きより月をまちあぐるのかな　〃
ひやくと月み草生えて燈籠ち寝　〃
年々や月りまてしたさ世の空　篤老
人の来て灯もは月みて帰られ　樗堂
むぞうぬまでと月見てあかつし山　木海
湖も富士の古き葉から夜かな　〃
第夜二度り出てり月影の　〃
出て月あ海の暮より月の雲　〃
月の泛みそよぎたなびや山のと　〃

木海
阜他
士明

西晴山月高
海山を洗ひ去りて月高
岳外の清ら〳〵しき
阜他亭
宮山寺の佛殿の佛像
宮山寺
蒼〳〵たる松の樹の間に月高
夜の人ちらほら
夜深きの鐘の響き
松の木の間に月高

漫々
蒼三

素卿

外六

藝亭

梅室

而石

黄山

梅裡

伊豫　墨池
太華
竹屏
素屋
柳吾
蒼山
芳英
〃
飄齋
柳絲
薺堂

秋月

芹舎
〃
蒼虬
〃
〃
〃
〃
鶴老
樗堂

月居　西月　世南　卓池　〃　竹有　沙鴉　〃　秋峯

十六夜月

月見

梅室　恵雨　百古　其翠　士朗　道彦　鳳朗　蒼虬　〃　〃　〃

蒼虬
〃
〃
〃
梅室
〃
〃
世南
旭嶂

月秋

梅通
芳英
飄齋

星月夜

士朗
護物

伐年
駝岳

ちりぬとて枕もなくに
をしらしも
佐久夜子ゆゑ

ふるゝれ
きらるゝやもゝなる
柳葉

七月

立秋

梅室

葛三

木海

鳳朗

月坡

士朗

〃

道彦

鳳朗

沙鷗

梅室

〃

〃

〃

〃

蒼帆

〃

溪齋

多代女

恵雨

月坡

〃

今朝秋

秋の月やゝ[illegible]傳ふ[illegible]の曼　芳英
濡色のうゝ[illegible]ぬちりきかるる　薺堂
拭ふやゝ[illegible]せぬ酒の酔さめ　草陽
[illegible]川秋や[illegible]一羽　凍洞
秋うつや[illegible]の小豆飯　芹舎
[illegible]の秋[illegible]ふ[illegible]拾遺　蒼虬
[illegible]の秋掃[illegible]ふ[illegible]の夢　〃
[illegible]の秋　〃
[illegible]の秋　〃
[illegible]の秋　〃
[illegible]の秋　〃

一[illegible]の秋　〃
山の井[illegible]の秋　〃
吸[illegible]の[illegible]の秋　〃
知る[illegible]の秋　〃
人[illegible]の秋　〃
[illegible]の秋　〃
[illegible]の秋　〃

芋蔭

[illegible]の秋　〃
一[illegible]の秋　〃
毎[illegible]の秋　南溪
[illegible]の秋　〃

世の秋はかれてこそ人の秋
秋の月いとさやかなる秋
思ふこころのすがらやあきの秋
月はいとあはれなりけるあきの秋
あはれなりけるあきの秋
古樹の白入餘るやあきの秋
塵もなく乃ちいとさやかなる秋
人はけきてはなる
はるかにてこそ秋
時うてはなるやとなる秋
思ひ出でて秋の今朝の秋

鳳朗
篤老
〃
木海
世南
〃
漫々
梅通
百古
繕角
芹舎

來秋

高楼のうり秋やあらぬ
来し秋をこれはなく
あはれなるあきのあ
年くれぬ朝くれぬ
来るべきの秋
翌くるとうの秋
たつ秋は
きみとの秋
秋の月
来しかぬ秋
たつ秋は

鳳朗
〃
士朗
沙鷗
秋舉
木海
蒼虬
梅室
杜鵑
葛三

初秋

神秋の川瀬の水にてらす月　士朗
きつの秋の森の下つ岩根　〃
初鳥や雨くらき帝の御宿　蒼虬
きりの秋や雲の上なる月の光　〃
神秋や洗ふ雲の行末　〃
けつの秋や雲の上なる月の光　鳳朗
きりの秋の接穂の花さかり　〃
初秋の雲も鳴るなり松の風　太海
きつの秋や松の音ばかりなる　〃
神秋や篝乃ふもとの影さす　〃
けつの秋や白鷺ふりし藪の井　沙鷗

きつの秋やしら鷺ふりし藪の井　南溪
神秋や小路の古ふるさとりて　浪華　豊卿
けつの秋や雲の乾きさらし布　春蟻
初秋や日数ちりの色はかわし　梅通
神あそびやきりつなぎ山の花　其翠
きりの秋や梅雨をきとる朝さらし　月坡
きつの秋のもとり法の蓮　恵雨
初秋や竹の子の笠の雨　可春
力なや秋の雨ふる笠の雨　成美
きりや秋の果の雨ふる笠の雨　〃
薄ゆく首出す秋の戸口の雨　樗豊

七夕

[illegible]
加茂川堤を上り稲荷の社
[illegible]

七夕や枕りめて交はせし　蒼虬
〃　〃
[illegible]
たゞ機を思ひ[illegible]
七夕の落ち落ちて跡もなし　〃
[illegible]　鳳朗
七夕やきの[illegible]り　木海
[illegible]　乙二
棚機の[illegible]秋の[illegible]　不染

星合

[illegible]星の数[illegible]行[illegible]　伊藤墨池
七夕や[illegible]を通り[illegible]　〃
七夕や[illegible]　竹屏
[illegible]乃[illegible]　妙寶女
[illegible]を[illegible]迎　梅室
折数や星の[illegible]　士朗
[illegible]　〃
加茂川や[illegible]星の[illegible]　〃
[illegible]星[illegible]　沙鷗
星[illegible]　一茶
[illegible]　〃
[illegible]　蒼虬

多代女
醉雨
月坡
葛之
雀叟
西月
士朗
〃
〃
乙二

鵲橋

天川

木海
〃
一茶
篤老
椿堂
烏頂
世南
蒼虬
〃
南溪
枝月尼

鳳朝
〃
梅室
〃
〃
多代女
定止
河曉
松隣
枕守
梅亭

梶葉
盆會
迎火

蒼虬
多代女
梅通
蒼虬
木海
沙鷗
午心
恵雨
〃
木海
阜池

魂祭

葛之

可都里

士朗

鳳朗

寥松

梅室

其翠

墓祭

芹舎

一茶

鳳朗

大江丸

士朗

木海

蒼虬

盆月

概ねの置人なたり一篇なれば
門掃きくるくるとなるのはき　梅室
松吹きやまぬかぜかぜ　〃
小一時まうしかく坊りなるなれば　恵逸
出るなるべきなれを思ふらむ　葛三
ふるくなるのなるうるなるなる　梅室
ちりなれば泥ちりなるなるなり　蒼虬
刺鯖やふるなるなるなるなる　其翠
おくりなるなるなるなるなる　〃
氣なるなるなるなるなるなる　木海
なるなるなるなるなるなる　雀叟

生身魂
刺鯖
送火

湖辺道遥

有徳むや志なるのなるなるなる　梅遥
大なるなるなるなるなるなるなる　蒼虬
火なるなるなるなるなるなるなる　〃
涙なるなるなるなるなるなるなる　〃
数なるなるなるなるなるなるなる　〃
やるるるなるなるなるなるなる　〃
なるなるなるなるなるなるなる　南渡
紫なるなるなるなるなるなるなる　梅室
なるなるなるなるなるなるなる　雀叟
なるなるなるなるなるなるなる　可丸

大文字
燈籠

攝待

竹にも[illegible]の[illegible]かれ　松隣

草むらに切籠かけたり草の庵　素屋

接待[illegible]竹の縁　季雪

秋の[illegible]を照らしけり

ゆふ[illegible]切籠[illegible]の[illegible]　芹舎

攝待や母親[illegible]　雀叟

世の[illegible]　梅室

[illegible]　ゝ

踊

松の[illegible]踊[illegible]　ゝ

三宝[illegible]の[illegible]踊[illegible]

[illegible]踊[illegible]　ゝ

秋もやゝ[illegible]　ゝ

[illegible]踊[illegible]　ゝ

山寺も[illegible]踊[illegible]　西貝

[illegible]踊[illegible]　ゝ

[illegible]　世南

[illegible]　蒼虬

[illegible]踊[illegible]　ゝ

[illegible]　卓池

[illegible]萩[illegible]　鶯老

一村の[illegible]　ゝ

[illegible]踊[illegible]　虚白

相撲

鷲居　蘆室　班竹　米女　恵雨　〃　芹舎　士朗　篤苑　〃　可都里

一茶　〃　阜池　駝岳　指室　〃　〃　而后　墨池　恵雨　禾明

伊豫

花火　世南

[illegible]

惠雨

[illegible]

如夢

[illegible]

殘暑　蒼虬

[illegible]

鶯花

[illegible]

露涼　南溪

[illegible]

梅通

[illegible]

蕙逸

[illegible]

梅裡

[illegible]

世南

初嵐　鳳朗

[illegible]

柳散　葛三

[illegible]

梅通

[illegible]

梅室

[illegible]

桐葉散　世南

[illegible]

南溪

[illegible]

而后

[illegible]

梅裡

[illegible]

鶯老

[illegible]

桐ひとえだ拾て庶つく拾ひあり　鳳朗
ちる葉の数なかるべきかの桐　〃
桐一葉とく秋役り拾ひあり　木海
桐の葉とうらもまるとまるらし　蒼虬
葉庶の葉扇ふ葉ふ一葉ふれ　〃
塚百やあるき葉きり一葉ふ　南溪
菴の戸へ拾ひ入るり桐の葉も　士朗
ためらふと拾ふ秋の桐一葉　沙鷗
塚乃桐葉ふ拾ふ落ふ陽ふ　〃
ひきゝ歩ふ馬ふ葉ふ一葉ふ　梅室
海越えるり正月ふ出るり一葉松　〃

桐葉ふ外ふ車ふ出しふ葉の内　芳英
切り一葉ふ外ふ流ふ流れ　梅通
葉ふ踏ふ神ふ葉ふ星ふ秋の色　〃
桐一葉ふ踏ふ葉ふ牧ふ　岱年
葉ふ力傳ふ桐乃一葉ふ　為山
豊海や一葉ひらふ又神ふ　雀叟
葉扇ふ葉ふ拾ふ桐一葉　酔雨
葉ふ中ふ次ふ海ふ桐ふ葉　一桃
人ふ葉ふ歩ふ葉ふ一葉ふ　素屋
鶴乃葉合いのふ葉ふ一葉　芹舎
乃ふ葉ふ赤ふ畑や桐ふ葉ふ

木槿

菓の戸の閉ぢてくれ方雨ふりくれ方
とれ程雨ふる夜の木槿哉　蒼虬
中くり蕊の残りたる木槿　〃
折ふしの雨のさめぬ木槿哉　梅室
咲甲斐も菓物の姿木槿哉　〃
籬年り接ちてくれる木槿哉　〃
朝乃雨ぬれ石咲くれけり　篤老
魚洗ふ寄もとくれる木槿哉　〃
お庶お乾乃影や白くれけ　道彦
人寝り寝ぐ白いあらぬ木槿哉　葛之
足たらぬ木槿哉　鳳朗

朝顔

樵人のむさと折くれる朝顔
しら露ぬ寄ぬ咲ぬ朝顔　寥松
夏くれる咲くれ社絡る木槿哉　世南
町ぬ出ぬ起ぬ日ぬ出ぬ木槿哉　西疇
寄れり詩ぬ寄ぬ白木槿　素屋
汗町や石垣乃くれけ垣　虚粟
お出ぬ出ぬ朝顔ぬ木槿哉　響角
一陣ぬ雨ぬ花ぬ木槿哉　凍洞
ひやくと蝶ぬ咲ぬ木槿哉　芹舎
朝ぬ雨ぬ蕾ぬ咲ぬ朝顔　士朗
〃
〃

市中やさくら船のふくろ三ッ　蒼虬
あきうどや物うりさくる者もあり　〃
船頭やさくらの世をゑの振　〃
藤ノ井茶ハ下京と東に有り　〃
朝ゆをさくしふの家湖田の氣　〃
ひきぶし　後乃白いハくくれ也　〃
くらうふ　舞うゆ蓮いけり　〃
藤のとくふしれとさくはさく　〃
船うもれ咲船の乃やたやとき　鳳朗
あきうどや夢船ひとてゆ咲さくり　〃
朝顔乃垣折ゆくをさいあふ船　〃

向ふもせんせ藤ノ目ゆ船ふ　〃
ひのきゆやとうゆ夢てふ咲さくらて　〃
船うもやさくうのきりゆ咲ひとき　道彦
あきう船や浦仲ハ江戸ふあき変　〃
朝顔をしゆ船ゆ見ものゆ野口ふ　菖三
藤やうさ一ゆ人ゆ咲さくり　卓池
あさ船ゆ咲ゆ咲さくふ浦ふ乳　西月
ふうゆ夢ふ花ふく船ゆ咲ゆ　〃
ひきゆ夢を咲ゆ咲ゆ咲ゆ咲ゆ　〃
朝船と俳一ゆ花やゆ落乳前ゆ　篤光
船うもやゆ乳ふゆの手を咲ゆ　支蛙

鶯なきの目を通さぬやみの山　木海
草やとる鶯なくこえて咲　萬和
あきの夜の笑ひぬかたり花　不染
朝鳥なくこゑや一歩の三桂　世南
鶯なくこゑ天をくくる色は繁く高　〃
中川のかはのあきの夜〃　〃
あきの夜は松をはられて安寧　〃
鶯なくや訪ひはとうれしき梅根　〃
草やとる一ぬかたをその傳ふ　梅室
朝なれば去年に汲んん紀州　〃
あきの夜や蔵目もさめぬふの女　〃

鶯なくや西の井にうるみ物
ほのぼのとふるやゆ人の雛
朝鳥や夢のわ糸を人ぎの勢
草乃見渡ひくやむ夢の影
鶯なれちるあや深きる
やうあくみ鶯なる咲ぬ夏乃井　〃
此乃ゆ
鶯なる人丸法ほのくと　〃
草や雲をかくらる等歩　有節
朝鳥の花行ぬ夢乃間　花醉
あきの松や神ぬ　摂津　梅椎

あさぢふの宮ぶせく深きぬ霧一ツ　飄齋

德不孤有隣

朝夕を花の枝をうけ乙姫と　芳英

葉や戸ハ明られと敲ぬの中　多代女

ぬきとゝ見やあの小白き花乃枝　梅裡

ゆきとゝ葉さゝ〳〵朝乃西　思文

朝ぬの蒼紅きぬたゝいま　三岳

訪源者

一里ゆく母あり朝乃戸を明守　雀叟

星ゝ西朝乃〳〵白鳥乃　拓守

紅乃やゆ出先ゝ友ゝ乃　草居

拓梗

蒼虬

長年に伐ゝ出ゝ山ゝ　道彦

蒼易ゝ白ゝ雨ゝ乃蒼ぶ　鳳朗

白ゝ乃ゝ乃ゝと見ゆゝ　〃

中あけゝ見ゆゝ拓梗の蒼ぶ　〃

咲ゝ乃ゝ蒼ゝ紅ゝ　〃

女郎花

齊堂

おゝ乃ゝ立ゝ乃ゝ乃ゝ　道彦

黄乃や蔓ゝ乃ゝ女ゝ　〃

折ゝ乃ゝ連乃ゝ乃ゝ　鳳朗

ゆゝ〳〵ゝ乃ゝ　〃

乃ゝ立ゝ乃ゝ　〃

道乃ゝ乃ゝ乃ゝ　漫々

蒼虬
〃
〃
西月
卓池
士朗
〃
〃
沙鴨
馬年
萬和

玄蛙
梅室
〃
〃
〃
而后
梅裡
錦城
駝岳
班竹
鶯居

萩

萩の葉の能く茂りあるを見て

篤光

遠方の花ゆゑ見えぬ人のよ萩の葉

士朗

蒼虬

雪ふる夜の月の程とぞ思ふ

〃

門の萩よりくしたる花ありて

梅室

花ゆゑ見えぬ人の萩の色

〃

月姫の小枝を折りて萩の葉

〃

萩の葉の散りあるを見て萩葉

沙鷗

萩の葉のたくさんたちをきのある

〃

小倉菴にて

蒲原六丁松山五丁

萩花

萩の花の

〃

新寺の

〃

山萩の近くにうゑられる小ぶちもうゑ

〃

徳の多り腐れの中に萩の花

〃

庭の萩や結ひ捨てる縄に咲

士朗

村の見門の間に萩の花

〃

人家や累さねめぬ萩の家

〃

長級の赤さかな萩の色

漫々

萩のうく結ひ捨て極

鳳朗

〃

来て墨さらをあらふて萩の花　蒼虫
石垣のかめきをふまく萩花也　〃
拾ふに者をたきむ萩見ぶ　〃
逗留に響や　萩乃一ちらめ　〃
ゆらいとうねをうつる山花萩　〃
切人ゑ　萩さく萩の姿拾ふ事　〃
古ほ庵ぬをたこ　拾ふ萩　世南
たこ　豪落ゆ人ゑ指　西月

高野寺

人ゑの中ゑ　鶯あり　梅室
萩の咲　紙屋を拾ふ山路ゑ　〃

雑掃ゑ夜のみたりゆゑれ萩　〃
前月花乃ゆ　萩の色　〃
掃ゑ　花ゑ　素屋
ゆゑ　花乃　鶯居
古寺や　拾ものゑ　月坡
ゑの枝乃　花ゑ　樂水
ゑの　嫌花色　而石
小中川　拾ふ　萩の　酔雨
ゑ　ちり　ゑ　萩の色　定止

ゑ　ちり

拾ふ　梅の一ちり　岱年

芙蓉　有節
秋海棠　采女
蘭　秋香女
芹舎
成美
武陵
道彦
士朗
椿堂
沙鷗
而石

藤袴　鳳朗
雀麥　素檗
芭蕉　梅室
紫苑　蒼虬
鳳朗
梅室
世南
阜池
梅裡

蕃椒

[illegible]　士朗
[illegible]　沙鷗
[illegible]　阜池
[illegible]　蒼虬
〃
〃
〃
〃
蕃椒[illegible]や[illegible]蕃椒　大梯除
いつこりく[illegible]　鳳朗
[illegible]　梅室
〃
[illegible]　南溪
[illegible]　机下

西瓜

[illegible]　月坡
[illegible]　多代女
[illegible]　恵雨
[illegible]　思文
[illegible]　道彦
[illegible]　西月
[illegible]　梅室
[illegible]　白雀女
[illegible]　黙池
[illegible]　月[illegible]
[illegible]　芳英

南瓜

糸瓜　卓池
蔓掛のしてもこの入へちやうま
節うくたりぬくあれのたくれく　虚白
行扇置くしきふくあり　士朝

瓢

幸丸刈髪の髪
撫ぐもと命の生成瓢の那
翼の戸ほのぐ三ふくあり　梅室

秋蝉

あきの蝉ぐ鳴ふそ鳴たる　巣兆
秋の蝉その日くふ鳴ふり　蒼虬
かくころり入んまつり蝉の蝉　木海
日はまつ蝉のつ戸蝉の蝉　卓池
多代女　梅室

蜩

蜩やうの蝉日くふ鳴ふ山と出にくり　鳳朝
鳴くふ北鳴ふと十日鳴ふ弘　葛三
蜩やうのぐ鳴ひの家やくら　木海
日くふ小孔の鳴鳴ぬ鳴ふり　世南
ひくふやこ鳴ふ山の日　蒼虬

秋蝿

秋蝿ぐやこ行の入日い世北有　梅室
蜩やはひ小蝿こむ有のよつ　〃
人中ぐ生ぬこ中に秋の蝿　〃
行きの蝿北蝿ぐ生ぬ蝿　梅價
月の蝿ぐ蝿小ぬ秋の蝿　蒼虬

秋蜂

秋蝶

あきの蝶門〜赤信を世の中の
ちりてあき日を忘れくれと秋の蝶　士朗
物のてふ花ふけ紅の物すり　沙鷗
秋の蝶建たれ市り秣郎　梅室
羽ぬいや松田を上るおいき乃蝶　蕣堂
りけくさりやとんかれ　鳳朗
おれかり赤い出立乃蝶物うな　一茶
物せ多色ちむ空ちとんほれ　道彦
蝶物の十ちりつくれ木うま　士朗
やむちう北せちあれ如家ま　〃
りあのまや世ちの蝶物うな　樗堂

蜻蛉

蟷螂

複雨に蜻くらうのえんやとんかれ　木海
ぬ出後の世無とくとえ赤蝶物　〃
中く水の曲れちよりおとんの蝶　梅居
蝶物の羽根うり遠くと上ぬ　梅室
蝶物や帆ちらう蜻うまくり　〃
とんちうやおり蝶ちいきくり先　蒼山
蝶物や乃北乾きの中の蝶物　一桃
けちくと蜻の羽根すき蝶物ま　梅裡
ぬいくと宙うれつとんれ蜻　酔雨
まきりや蜻くとちの蝶乃後　而石
蝶物や蜻ちうの向蜻り　多代女

虫

蒼虬　西月　篤老　世南　卓他　梅室

而石　梅裡　黄山　思文　可大　杜鴻　搏吾　芹舎

蛍

あくるあの光をかりてきりくれ　士朗
暮なるやいつとしれぬきりくれ　〃
たまくしく宮とゆめきりくれ　葛之
あるあり光をかりてきりくれ　一茶
かりくれかりくれきりくれ　〃
泥光ひかりくれきりくれ　〃
傾けし屋の梅ゆるきりくれ　鳳朗
暮るるあるきりくれ　〃
はれるなくやいつもきりくれ　沙鷗
光るかるるあるきりくれ　〃
おあくくこそきりくれ　丘高

新宮やきりくれ　木海
きりくれ原や紙帽の内　〃
古月の中ゆきりくれ　蒼虬
板橋くるるきりくれ　〃
月蛙ゆきりくれ　〃
酒屋にきりくれ　梅室
月ゆく拍子やきりくれ　多代女
月の新蛍ふるまの光り　九華
蛍てゆのきりくれ　梧風
野ふるあ蛍きりくれ　寄鬼
蛍別るかやなくくれ　芹舎

二虫対聯

松蟲　道彦
鈴蟲　梅室
〃

蓑虫　道彦
蛇蝎　沙鷗
亀馬　世南

蟬　梅室
冬蟲　士朗
蚯蚓鳴　西月

梅室
〃
一茶
士朗
葛三
道彦
阜池
蒼虬
〃
〃
篤老

[illegible]　浪花　木海
[illegible]　扇暑
[illegible]
[illegible]　紅毛人　道冨
[illegible]　梅室
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃

[illegible]　鶏九
[illegible]　曲阜
[illegible]　恵雨
[illegible]　采友
[illegible]　亀川
[illegible]　李雪
[illegible]　霞釜
[illegible]　芹舎
[illegible]　蒼虬
[illegible]　西月
[illegible]　南溪

鳳朗

一茶

五十五

素檗

士朗

秋峯

卓池

術鶴

世南

世南
〃
申齋
梅居
篤老
梅室
〃
〃
〃
〃
逸淵

梅通
梅裡
醉雨
西馬
九萃
丈翠

蓉堂
杜蓼
李雪

霧

得車一字

野さきの霧に分るる車哉　士朗

信楽より霧市に出る茶売

〃

知る白比丘より初て霧の海

〃

秋霧や抜け出つく坂乃茶

〃

高野山

霧に初て見る比丘けりや九百坊　捉亭

馬に乗て霧さめやすや山の霧　木海

伯州大山にて

〃

霧きりの後を走る白い蹄の音

〃

四国八十八所

霧の後を走る白い蹄の音

〃

鶴光

魚をけて霧の極楽をめぐりける　蒼虬

宇治茶園

霧に出て杉の霧の世南

宿に八丁畷の霧

月城

宿に八丁畷の霧

月城

山館

梅室

旅人を霧に隠す霧哉

大津絵奴乃賀

〃

野きりや世間を一時に霧

〃

霧の中に世界あり

多代女

川風に伊勢の霧あり

市雪

点つめて霧に戻る中

白雀女

秋風

人間にはあらぬ梅やはるの色　梅宇
秋風や如く夜ふかし蟋乃声　〃
山茶や通研らせん乃秋乃風　〃
星ふるく牛の声しる物の風　〃

湖南秋泊

ふるさとの峰秋風の三年の後　〃

宇治にて

山吹の柴葦ふるき秋の色　〃
柴の戸山吹ふき秋の風　〃
蕎麦をうけし板ふあるき乃風　木倫
菜畑の垣せよ物の色　〃

秋風や別れの屠を葬くふ数　篤老
物風を秋色富士ふ一峯　月居
古里乃秋風高しきけ飯　世南
ふるさとの鶏鶏白しはるの風　〃
秋ふ重や板ふたと板ふ吹く　〃
物風や赤の稲川乃秋ふ　〃
山の井をふるさとや物の風　〃
秋風乃吹や都ふ川乃　〃

[illegible]

物風や風ふ重ふ山乃場　〃
下京乃秋風乃やたふの敷　〃

秋の中や小松をくらく毎のへり　道彦
ゆうり吹るのとい出る蛍の風　鳳朝
蛍ゑとけ付るせくを思ひるを　〃
大空ふあるを出一ひきのうせ　〃
傘とく秋風をたをやくまれ虹　〃
吹ちつく雲ふ日あり秋の風　〃
みくりの華天の秋出る蛍の風　洲鷗
秋風や新より毎くれりうを　士朗
洗麻ふ戸を男にうり秋の風　〃
蛍吹や風ふ多本のうをあら　〃
あき風の吹遠しうり穀の有　〃

門敲く高や野上れひきの風　干當
秋風ふ流ふや流舟のうけり　蒼虬
塩濱ふ人の動きく蛍乃を　〃
のうくと干潟をふくや秋の風　〃
桃の高れ高ふくを秋の風　〃
秋風を繰ふ山ふくを山乃氣　〃
竹ふれ出の中ふり蛍のう　〃
水と見れ新くく蛍多秋のを　〃
志ふ濱や果ふたりしひきの風　〃
新ふ新を鶏ふ見秋風ふ出ふくく
あき風や金出を志ふ濱の濱　〃

扇置

扇や門に沒本の拾ひうめ　旭嶂
炉ふせう稚ふやう〳〵今年竹　惠雨
たゝらくと蕚に咲きり朴の花　悠平
團を捨て〳〵姫の扇哉　芳英
けさきり人の遠ひ秋の風　蕣堂
き〳〵張や今宵を見る秋の風　芹舍
扇形〳〵の角の中淋芳原　葛之
芳井戸に立ちめ〳〵や後ろ扇　月居
捨ひ〳〵古きあり〳〵の色　梅室
極人のうまれ扇や〳〵ふ姫　伊豫墨池
筋折さ〳〵ふわ〳〵扇ふ　草居

八月

八月や加ふ〳〵ふ紀き紀　漫々
本ふ船八月ふ濱西ふ　沙鷗
八月や晩日ふ〳〵ふ〳〵さ　士朗
竹ふや珠ふ八月の黒わ〳〵へ
八月の〳〵〳〵ふ〳〵ふ　道彦
八さを後ふ角ふ角ふ花　鳳朗
八朝や年ふ角ふ紀年すあ　梅室
田川ふ星の句さふ田面の日　葛三
後彼岸　義寺の姫ふ星ふ〳〵く彼岸ふ　士朗
中日や彼岸の陳乃姫ふ朝　西月
二百十日　綾や〳〵ふ三百十日を星乃下　鳳朗

不破月見紀行　　沙鷗

四月八日十三夜つゝあく永飛かりんとの裏今建寺みく
ゆくすゑや　毎ふ　新井　十三里

十四日　墨俣川　三里

毎年や　破り　あ　四　さ　杜の夏

十四日　赤坂　三里　陸る

新墨や　毎の　光　乃　耳の　ふ

むさとふの　墨を　ふ　く　言　む　と　ふ　り　小　は　敷　乃　墨　り　め　ふ

道の　ち　や　ま　ち　ち　あ

四　る　知　と　新　ら　夜　の　仕　り　ま

十五日　杭瀬川の舟　十三里　桂ふ

ち　ま　ち　つ　月　ふ　大　き　ま　ふ　高　也　北

新　杭　瀬　ち　月　の　宿　る　な　し

十六日　赤坂　山　ま　き　る　此　山　ま　り　寺　石　と　つ　ふ　地　高　坂　山　し　ま

来　ま　の　市　り　む　き　く　し　ま　り　赤　敷　石　雌　実　た　る　た　ま　く　出　ふ

に　し　ま　れ　お　ま　ふ　く　む　ま　業　く　ま　り　高　海　ま　ま　ま　高　ま　く　て　水　四　あ　り

染　物　の　赤　坂　山　や　ば　ま　れ　る

ふ　破　の　月　を　十　六　あ　り　来　り　れ　ち　の　ま　き　小　ま　郎　し　ま　高　ま　く

月　ま　ま　ち　ま　つ　く　ま　ま　る　ま　き　と　宿　ま　に　北　ま　ま　う　ま　ま　月　ま　く

き　の　ま　ま　ま　今　ち　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　の　ち　ま　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　を　今　ま　珠　数　ま　ま　り　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

まつくとて我柳は根らんの家とかいふ神の又乃むかし
いふりおもひけるに此神のましますに徒よさきけの光あり
ねさて此名をまおよび来りなし

古里を尋ねり所で居らん

板橋阿弥の持と出及ひてこそ数々聞まし縁まひらん
まて小世をいふへ不知ことのうきまてる

月の出や不破にちいさきてはせ

萩すゝき地十六夜も居る

十七日　高田にて

秋風や家の株こし小秋の山

廿二日　白石村にて

飛流

秋さむや一足つゝ乃九十九谿（キダ）

見つしめきや秋風の跳ちとり

瀑布

新しきの秋まへきりんの滝の音

帰路下笠村といふ所にて

朝の日くせりせきや秋の山

多喜此事請て別る

山高やいつまく月の友起こし

ちうぶの妹の記

世南

[illegible]

[illegible]

雪の流れたるうら妹のはつ乃侍

荊那

[illegible]

放生會　南溪

初汐　楓下

野分　其翠

南溪

篤老

道彦

阜池

世南

黄山

桂李

稲花　士朗

稲　素檗

而后

蒼虬

葛三

栗月

定止

沙鷗

新米　午心

長崎寓居

木犀花　鳳朗

木犀や蘭の西ふ好

木世人の長海の長崎の今

花野　木海

福信の田地拾ふ野

五湖の花野に出て

物せの詩やたちみれ　鷲老

うこと拾てふ物

蕎麦も一湾の安野

松風の花野見れば

小料理の小やの家　梅室

草花　南溪

恵雨

始風

梅室

蓼花　士朗

鶏頭　沙鷗

蒼虬

芹舎

士朗

蒼虬

沙鷗

平山

烏都雄

芋　曰人
秋茄子　而后
鬼灯　飄齋
蔦　多代女
蕎麥花　卓池
　　蒼虬
　　世南
　　鳳朗
　　〃
　　蒼虬

稻刈　西疇
　　大江丸
薄　寥松
　　榮兆
　　沙鷗
　　世南
　　多代女
　　道彦
　　鳳朗
　　〃
　　寥松

葛之
士朗
〃
沙鷗
〃
阜池
木海
撲堂
篤老
〃

世南
〃
〃
〃
〃
蒼虬
〃
〃
〃
梅室
〃

尾花

多代女
〃
素屋
春宵
黄山
思文
一清
〃
虚栗
道彦
沙鷗

萩芒
芦穂
秋野
秋山
秋海
水

蒼虬
〃
梅室
多代女
蒼虬
〃
木海
日人
芹舎
士朗
沙鷗

秋空　鳳朝
秋雲　淡節
秋日　欅堂
木海
蒼虹
〃
山寺
あさけのこゑ高くなるや松の音　沙鷗
秋の月波を洗ふ入り江　〃
秋の日やあらぬ乃ちの　木海

秋夕　西月
秋夜　士朗
萬和
士朗
西月
〃
〃
秋の日やよくもたなびく牛の尾
世ちゝとなれ年の月雁の姿和
仙ちゝ東山ちゝつあきはれ
芒ちゝ初くゝのたゝ秋の夕
あ月は秋り鶏一ちゝ夕へ
あきはれ雲や望ゝ月ける法西
秋の朝ゝ山の月ゝ来ゝ法西
〃
秋の朝ゝ月ゝ入
秋の朝ゝ月ゝ入
秋の夕ゝ鶏ゝ鳴ゝ
秋の夕ゝ鶏ゝ鳴ゝ
秋の夕ゝ鶏ゝ鳴ゝ
蒼虹
鳳朝
西月
而台

宇治八景

山寺の鐘と姥の歌ふ所

世南

ほうらくとして松の色

〃

もゝとせをくらしのふるさゝん

鳳朗

山ちかき夫婦の桜ちらし

曰人

漁舟をうかべて一山あきめる

蒼虬

杉ふかき所ちらこぼる

〃

小倉山ちらしてうゑし山ちらし

〃

伊勢紀行

〃

ちはやの社ちらし

〃

翠の葉の刻々ちる所

南溪

長夜

砧

木海

西月

篤老

世南

〃

士朗

〃

〃

阜池

鳳朗

〃

[illegible]　道彦
[illegible]　〃
[illegible]　沙鷗
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　梅室
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　礪山

鳴子

[illegible]　多代女
[illegible]　而后
[illegible]　桂季
[illegible]　惠雨
[illegible]　伊豫　墨池
[illegible]　盧栗
[illegible]　百古
[illegible]　乙雅
[illegible]　士朗
[illegible]　〃
[illegible]　蒼虬

梅室
南溪
申齋
萬頼
阜池
沙鷗
〃
葛之
道彦
鳳朝
恵雨

篤尤
木海
沙鷗
阜池
士朝
〃
梅室
〃
而石
悠孚
押吾

[illegible]　乙雅
[illegible]　芹舎
[illegible]　木海

添水

推谷

落水　乙二
[illegible]　南溪
[illegible]

崩築　流芝
[illegible]　芹舎
[illegible]　梅室
[illegible]　多代女

蛇穴入　嵐外
[illegible]

秋雨　士朗
[illegible]　沙鴫
[illegible]　木海
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蒼虬
〃
篤老
道彦
鳳朗
猪来
太祐

芹舎
梅室
〃

鳳朗
〃
〃
篤老
西月
士朗
〃
阜池
沙鴫
蒼虬
〃

鶉

初鳳

黄山　器推　蒼虬　篤光　鳳朗　士朗　掬室　〃　〃　鳳朗　〃

鳳

素藥　沙鷗　士朗　〃　卓池　沙鷗　〃　鳳朗　〃　世南

明け暮れ　一時乃丁　世南
一本つゝ乃ゝもきたる小松哉　篤老
幸湾や乃の末ゝ成ゝ成る　樗堂
い抜ゝう里や歩ゝ成ゝ成る詳　木海
丁ゝ山ゝたゝ成ゝきたる松哉　〃
乃ゝ宇や大乃ゝりさる所ゝ源　〃
町の名ゝ乃ゝ成ゝ成ゝ丁の名　南溪
乃ゝ宇や横ゝりゝ成ゝ成る山　蒼虬
夕乃ゝ引ゝきれゝ成ゝのゝり　〃
義越ゝ成ゝ成ゝ丁の後　〃
蓮ゝ寺ゝ入ゝ成ゝ成ゝ成の屋　〃

表の松葉ゝ成ゝ成ゝ乃ゝ　梅室
里ゝ湾や後ゝ成ゝ成ゝ成る　〃
乃ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　〃
さわゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　〃
乃ゝ松ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　〃

能登

度湾や丁ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　立處
乃ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　太郎彦
場を過ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ丁の詳　恵雨
新ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　一桃
ゝの明ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　霞川
金ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　其翠
乃ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ　芹舎

渡鳥

世尊記妙りつまてやわらりの
れりて乗さくしに渡り
乗男ら和歌や渡やり
仏ちの数一時やわらる

蒼虬　世南　沙鴎

✓

露井亭

けりこ乗るかさ生たて渡り
小豆干し掃の果りや移峠

而后　✓

鶯こ乗り生んやりかるてき
蛙の掃ら動くやうこ啄木る

木海　士朗　鳳朗

啄木鳥

木つ駅やにりてふやる
駅ちるこりやりこ鳴の

✓

鵤

蒼虬　椿堂　巣兆　梅室

鶲

澁鮎

蒼虬　桂季　太華　伊豫　梅室　薫雨　阜池

蒼小陸を掃あらく鳴れたり
ものの野せりこ青を刈れり
鳴一的来ふかちの世蕪りる
桜や百舌の時くるほくまむ
掃りや来ちこ鳴の野

金花山
鳴の野山こ来ると岩の数
山ちの如鳴こ山ちこ人ち
尺こ面ら鮎のさりや市の面
線湖ちこりよりてるるら山
ふ山こ人ち山ちあの法山亀

鹿

秋葉山の無縁和田の庵にやどりて

啼しきる夜の霧や棚の雨　士朗

そめたけも動けれ鹿の声　ヽ

門建てゆく人も有し鹿の声　ヽ

まひなき鹿や一川や里の鹿　卓池

水野菩提院

明の月うつる鹿の声かな　沙鷗

遠風や山の清山乃鹿の声　一茶

足枕寝ては鹿のむつましや　ヽ

鹿の声松も露のよ尾上哉　鳳朗

声ある啼や今はよそなる月の下　ヽ

大空へ啼声消えて白雲かな　蒼虬

夕山や下に無きて鹿の声　ヽ

はのぼりして一声たくや谷の鹿　ヽ

鹿なくや嵐のみ風を尺す計　木治

鹿の声聞えぬ浪の吹の音　西月

鹿の声あはれに深き露の秋　月居

鹿啼く雲和にたりぬ山の秋　梅室

声すこし渕にて走る星の数　梅居

あ山に出てぬ窓の下や雲の声　南渓

啼止んで夜の隣の鹿の声　ヽ

戸の隙へ入る月や夜の鹿　芹舎

九月

伊勢の菊を掘捨ぬ九月哉　蒼之

雅の妻恋しうる九月哉　鳳朗

芋掘の跡や小松に菊つく　道彦

妻はさや寄こそ寄しかの子　萬和

故あり菊咲里ぬれば九月哉　九華

鶏の鳥の座敷や秋興哉　金菜

市の菊咲と鶏乃鳴ぬ　可都里

北野芋茎祭

重陽

十日菊

九月中九日

掘人に一枝くれよ菊の花　士朗

さくの日や掘る人ぬる夏山哉　木治

菊ぬるの跡の名残や菊秋　〃

菊

菊を体用り九日なきのくれ　鳳朗

さくら菊の清くあるべし　〃

雲のさはの菊こそ咲　〃

菊掘さる跡小雨白いまり　〃

菊を掘て拾ふ菊ぬ　秋聲

里ぬ数又洗ふきく乃花　蒼虹

菊の名や さくらの出る菊里　〃

菊菊の外に植ぬのきく乃也　〃

面陣 月 根ぬ拾ぬくの菊　〃

古寺のくさ河 柳の上や菊の花　〃

信濃の松を菊 不学戸の菊　〃

[illegible] 蒼虬
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 木海
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 〃

新宅

[illegible] 〃

[illegible] 西月
[illegible] 〃
[illegible] 世菊
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 〃
[illegible] 梅居
[illegible] 南溪
[illegible] 〃
[illegible] 萬和

秋の末乃ちきりをうつす菊の花　篤老
ちるとて雖薄きまやうきみ哉　〃
山の戸ハ七月ちかくけさ菊の花　椿堂
山ずれる水の春のいや菊の花　卓池
挿ん枝ちるとも菊ハ安きさく花哉　〃

訪草庵

歌やうく菊ちるかぬ詠の題　士朗
白菊のちるとてうつる菊哉　〃
菊いつもしらぬ心ちにうつりぬ　〃
菊を銅人に思ひ合ふ菊の哉　〃
信ぬ哉菊のへりふきくの花　〃

菊ちる園ハ菊ちるあるハ八重咲　〃
菊ちるとも菊ちるあるハ八重咲　沙鷗
菊の花ちるとも紙　〃
菊ちるとも菊の花　〃
あやまちて菊の句ありあるあるく句ありあるく　〃
菊のちるとも菊の花　〃
きくちるとも山切ぬけく降にけり　〃
はつあるとも雨降ぬ　〃
ちるとも菊ちるとも枝の間　而后
ゆくとも菊ちるとも菊の哉　〃

金山をりて瀬川の渡しを越ゆ
飛驒の國に入

小鮎とる木は藤より菜の花　而后

川よりも菜種咲けり継ぎ門　〃

志らぬ雲は嵯峨やたつらん菜の山　梅祖

とく起きて菜畑や菜の花　〃

菜咲くや庭の畳打ち割り磨　〃

きくみるや峰の小草は門の畑　一清

古くて武者絵の菜紙をとりて

今や乃古年をおもふか

捨ひ置ひしくちぬや菜一把　李曠

何くれと飛びし花もなく菜の花　伯遠

おもふ宿は坂しく菜乃花　多代女

連日ながら雨ふるも

おもひ出の嵯峨にも菜の花は散　〃

折々の附けかなぐ菜の花　三岳

菜の花に夕暮を藤くて十種川　梅室

山路てもと降りき梅と菜の花　〃

手折せしめく紀の菜の花の咲く　〃

宝町や二階より見ゆる菜の花　〃

浜野菜菜を伴して菜の花　〃

押して傘と菜の花のさかりかな　〃

出り北東なとに人家の絶
絶せさるに庭をさきて菓乃者
林しらぬ菊花多く咲拾の下
月うりや赤く白く菓のさま
白菊の花に雲は白ひ北
菓乃くもや拭ひたてる丸柱
ほそつ竹の葉しらぬ菊花
雪ふる冬なれ白き花乃
蒔ものり日の留ちやきくの花
竹を入る菓の色まて見ひ
乃菓なり出りいえて菊花

杜鵑　〃
梅通　〃
芳英　〃
〃　〃
〃　〃
〃　〃
薺堂　〃
乙雅　〃
烏岬　〃
月坡　〃

後雜
後月

謝拙詠に付て菓や山里に中金華
菓樹こ少人の知はなり門掃へ
ぬいあつ菓花ふる雪ふる
九月十四日さとの家中
後の月くもり山に松くらし
雲つ月花の梅ふる山の月
ときやらす雲ぬ梅ふる月の月
出り月原の山ふる月
後の月原の月ぬ入り月
井原ちやうり松ふり原の月
入る雲ふる梅や　のちみの雲

芹舍　〃
護物　〃
梅室　〃
〃　〃
世商　〃
木海　〃

上ちかく行はなれぬのちはつる　蒼虬
ひさしうかさく出てうりはの月　〃
ゆふ月ふかき海の後の月　〃
のちは有次磨ゝ人の俳諧　士朝
生駒はや又なつかしの月　〃

此句八梅價カ津ノ國ニ住シケル氏一日鈴屋翁ニ書ノ尋レシトソ
留主ヲ訪テ其門柱ニ書ノ尋レシトソ

鄙時雨ふるなりの後の月　沙鷗
旅のなく義本ちかしの後の月　篤老
むつゝ地有船と出ぬ月　〃
気仙あや光なる名のちはつる　西月
のちは有白ちかしたゝき　梅價

十三夜

月の月ちかしたゝき　道彦
生駒の月ちかしたゝき　〃
ちかしたゝきの後の月　〃
吉海岸の名れぬや後の月　菖之
後の月ちかしたゝき　鳳朗
月の月ちかしたゝき　可都里
月ちかしたゝきの月　多代女
門戸ちかしたゝきの後の月　枝月尼
月のちかしたゝきの後の月　大江丸
十三夜ちかしたゝきの後の月　道彦
郊外の新ちかしたゝき　士朗

新酒　木海
　友是れ春の来れば新酒うまし
　はるばるや遠の狩酒の美味
　一つ春も年を惜しまれて年酒
　花ちる郷も酔ひ伏すや屠酒
　春日さす伊勢の初物新酒哉　南溪
　嵐川のぼるや酒もうまん酒　梅室
　酔ふ〳〵来るさそひ出す野酒　素屋
　手の舞と踊ひ出す野酒哉　芹舎
　あるさ来やさ朋あり伊勢の私　鳳朗
　　新酒氏を祝
　秋寒きさかのうさやや討法鞭　梅裡

秋寒

冷朝寒　雲百
　冷やかに寒し明はてうつり　木海
　朝寒もまだうつくしき秋の月　虚白
　朝やや寒しあるら去ぬし　薺堂
　芋茎もいまだ寒しのうれ　蒼虹
　小海老も寒し夫婦あり寒し　〃
　寒さもや朝寒もつまり秋の帝　鳳朗
　　寒夜の万燈はまに減りぬ
　夜寒　一茶
　寒風の方へ寒しうれ　〃
　門の木に泊る鶴うく寒しなり
　寒しなる秋の田に寒しうなる　木海

梅室

〃

〃

〃

南溪

梅居

涼呼

市雪

梅裡

木海

秋霜

露霜

〃

梅裡

蒼虬

梅室

沙鴻

〃

黄山

梅室

栗

梨子

柳

道彦

梅價

丈翠

黄山

梅裡

寄鼎

梅室

蕉雨

玄蛙

木海

多代女

椎

木實

菜萸

柚味噌

松露

初茸

乙二

蒼虬

士朗

蒼虬

梅裡

鳳朗

一茶

木海

多代女

菌

紅葉

大江丸

蒼虬

〃

〃

南溪

〃

萬籟

世南

〃

言雄

梅居

玄蛙

〃

〃

鳳朗

一茶

梅室

〃

文如餞別

古今の道を知る事は
あるはあらぬ中きりに出る事
くるとも見えぬあにあるべきか
乃なくて時雨ぬ木ともみちぬ

梅室

大矢田天王山三章

戸もはのみ使ひにあるべきの話事
けきやうにおもふこと枝梅

沙鷗

而后

傘に夕あり十ばかりみちぬ
おもかるべきを酬きあるべきふる

恵雨

多代女

多賀の時ふるえ遠くりみちぬ

谷間や是ぞ日の影うつる所
実ぬ見ぬ蔭ぬ山の裏ぬ
日和ぬ山のぬ木ぬ
梢沈む田ぬ
池ぬ見ぬ作ぬ
きぬ見ぬ枝ぬ

百古

齊堂

八瀬遠中

第名ぬ一ぬ二ぬ三ぬ
百ぬ山ぬ

桃下

丹波郷山寺
立春ぬ松ぬ

瓢齋

天保山

艸木紅葉　梅室

[illegible]　蒼虬

[illegible]　九馬

伊勢寺

[illegible]　飄齋

末枯

[illegible]　樗堂

秋暮

[illegible]　南溪

[illegible]　士朗

[illegible]　蒼虬

[illegible]　梅室

[illegible]　木海

[illegible]

[illegible]　西月

[illegible]　世南

[illegible]　鳳朝

[illegible]

[illegible]　　阜池
[illegible]　　沙鴫
[illegible]　　萬和
[illegible]　　多代女
[illegible]　　蕣堂
[illegible]　　凍洞
別府の[illegible]　　瓢齋
[illegible]　　芹舍

行秋

[illegible]　　蒼虬
[illegible]　　木海
[illegible]　　阜池
[illegible]　　多代女
[illegible]　　挑下
山中
[illegible]　　芹舍
[illegible]　　漫々
[illegible]　　篤光
[illegible]　　鳳朗
[illegible]　　太鈴

冬近

九月盡

秋雜

[illegible]　士朗

[illegible]　木海

[illegible]

[illegible]

[illegible]　梅室

松山や　[illegible]　而石

[illegible]

[illegible]　芹舎